

## 尾張旭市地域福祉計画（素案）のパブリックコメント実施結果

- 1 意見募集期間 令和7年12月17日（水）から令和8年1月15日（木）まで
- 2 閲覧場所 市役所地域福祉課・市政資料コーナー、スカイワードあさひ、東部市民センター、渋川福祉センター、新池交流館ふらっと、各公民館、図書館、尾張旭市社会福祉協議会及び市ホームページ
- 3 意見提出者数 1名
- 4 意見の要旨と意見に対する市の考え方

素案の関係箇所 ページ	章	意見の要旨	市・社会福祉協議会の考え方
1	表紙	〇〇年の表記が元号のみで書かれていますが、元号はわかりにくくなっているため、表紙にも西暦を用いたほうが良いと思います。 せめて、2026年（令和8年）などの記述としてください。	御意見を踏まえ、表紙及び本文（グラフ、図及び当該箇所に関する本文を除く。）について、和暦と西暦を併記するよう検討します。
2	21	第2章	本調査の有効回答数880件は、統計学的にみて、市全体の傾向を把握する上で一定の信頼性を有する規模であると考えております。一方で、年代別・地区別などの詳細な分析については、回答数の偏り等に留意しながら解釈する必要があると認識しております。 また、前回調査と比較して回答数が減少していることについては課題として認識しており、回答負担の軽減や調査方法の工夫など、今後の調査手法の改善に向けた検討が必要であると考えております。

	素案の関係箇所		意見の要旨	市・社会福祉協議会の考え方
	ページ	章		
3	44	第3章	<p>土台としての地域力として、住民（近所）、民生委員・児童委員、自治会・町内会、各種団体等、校区社協があがっていますが、なり手不足、構成員の高齢化、加入率の低下など、地域力を発揮する以前に、個々の団体自らの課題を持っている状態です。</p> <p>その団体に依拠する計画では、見通しは暗いように思えますが、どのように考えておられますか。</p>	<p>ご指摘のとおり、民生委員・児童委員、自治会・町内会、各種団体等においては、なり手不足や高齢化、加入率の低下といった課題が生じていることを、本市としても認識しています。</p> <p>本計画では、これら既存の団体のみに依拠するのではなく、負担の分散や役割の見直し、新たな担い手の参加促進などを通じて、地域力を維持・強化していくことを目指しています。</p> <p>また、地域住民一人ひとりが無理のない形で関われる仕組みづくりや、専門機関との連携を進めることで、持続可能な地域福祉の実現に取り組んでまいります。</p>
4	57	第4章	<p>「若年層を対象とした仕事の魅力発信」などとありますが、介護保険が始まる頃のことを思い出すと、当時は、介護職の専門学校なども女子に人気がありました。今はどうなっているでしょう。エッセンシャルワーカーの低賃金を、根本的に解決しなければ、いくら魅力を発信しても解決しないと思います。</p>	<p>エッセンシャルワーカーの処遇改善が重要な課題であることについては、ご指摘のとおりであり、市としてもその必要性を強く認識しています。</p> <p>一方で、賃金水準や制度設計については、国や県が所管する制度の影響を大きく受ける分野であり、市の地域福祉計画において直接的に是正を図ることには一定の限界があります。</p> <p>本計画では、市として取り組むことが可能な施策として、仕事の魅力発信や就労環境の改善支援、人材育成などを位置づけております。</p>

	素案の関係箇所		意見の要旨	市・社会福祉協議会の考え方
	ページ	章		
5	5 8	第4章	<p>年金支給年齢が引き上げられたことや、低年金の問題があるので、動ける高齢者に期待するのは難しいのではないかでしょうか。高齢者のボランティア頼りでは、うまくいかないのではないかでしょうか。何人ぐらいの人数を、高齢ボランティアで確保しようと考えているのですか。</p>	<p>ケース04に記載している事例は、特定の人物像を想定して施策の対象を限定したり、高齢者のボランティア参加を前提としたりするものではありません。地域福祉を「自分ごと」として捉えていただくため、市民の視点に立ったストーリーを用い、誰もが直面し得る生活上の変化や課題をわかりやすく示すことを目的として掲載しております。</p> <p>ご指摘のとおり、年金制度や生活状況の変化を背景に、すべての高齢者が地域活動に参加できるわけではないことを前提とする必要があると認識しています。</p> <p>本計画においても、高齢者に一律に役割や期待を求めるものではなく、あくまで「参加したい」「自分の経験や力を生かしたい」と考える方が、無理のない形で地域と関われる環境づくりを進めることを基本的な考え方としています。</p> <p>そのため、ボランティアの確保を高齢者のみに依存するものではありません。高齢者については、生きがいや社会参加の一つの選択肢としてボランティア活動に参加できるよう、講座やサロンの内容充実、活動情報の発信などに取り組む一方で、若者や現役世代を含め、幅広い世代が地域福祉活動に関われる仕組みづくりを併せて進めていきます。</p>

	素案の関係箇所		意見の要旨	市・社会福祉協議会の考え方
	ページ	章		
6	—	—	全体を通して、難しい課題に取り組んでおられると受け止めています。各小学校校区に福祉や子育て、社会教育などの専門職を配置し、それを核として地域福祉を形成していくことができないものだろうかと思います。それには市職員の増員が必要になりますし、拠点施設としては、地区公民館だけのスペースでは不足するように思います。	貴重なご提案をいただき、ありがとうございます。 専門職を核とした地域福祉の推進は重要な視点であり、本市としても関係機関との連携や専門性の活用を重視しています。 一方で、専門職の配置や拠点施設の整備については、財政状況や人員体制などを踏まえた中長期的な検討が必要となるため、本計画では方向性の整理にとどめています。 今後は、本計画の推進を通じて課題を検証しながら、より効果的な体制整備について検討してまいります。